

縄本島で悲惨な地上戦が行われているのと対比するよう
に、非戦地帯での素朴で温か
な人間関係が浮かび上がる。
「どんな状況でも人を殺さな
い、戦争を起ささないでいる
ことは可能か。それを問いた

かった」とバルバースさん。
まるでファンタジーのような
物語世界が後半、ある仕掛け
によって現実とつながる。
バルバースさんは四四年、
米国生まれ。ベトナム戦争へ
の徴兵を避け、ポーランドな
どに留学した。六七年から半
世近く日本に住み、東京工
業大世界文明センター長など
を務めた。宮沢賢治作品の翻
訳のほか、映画「戦場のメリ
ークリスマス」の助監督とし
ても知られる。

戦い拒む生き方描く

物語世界に入り込む中で、
戦争を避けるにはどうすれば
いいのかを自然と考えさせら
れる。だが「単純に反戦と
か、平和という言葉は使いた
くない」と慎重に話す。「た
とえば反戦映画と言われる作
品の多くは、どこかに独善が
ある。戦争も、平和という言
葉を使いながら、始まるもの
ですから」

この時代に、朝河貫一が
甦る、それも次々と。昨年
出版され、本紙で
も紹介された『1
00年前からの警
告 福島原発事故
と朝河貫一』(武
田徹・梅田秀男・
佐藤博幸著 花伝
社刊)から一年、
今度は安部龍太郎
の歴史小説『維新の肖像』
(潮出版社)が出た。

貫一は一八七三年に福島
で生まれ、イェール大学教
授を務めるなど、米国で活
躍した比較法制史の世界的
学者である。仏現代歴史学

よみがえる朝河貫一

の立役者にしてナチスドイ
ツとの戦いで殺されたマル
ク・ブロックが敬愛する歴
史学者でもあった。阿部善
雄や矢吹晋らの熱心な称揚

『日本の禍機』では、この
まま進めば国家的破局に至
ると書いた憂国者でもあっ
た。昭和の戦争にも同様の
警告を執拗に続けた。

安部の作品はそんな貫一
像を、戊辰戦争を二本松藩
士として戦った父昌武(後
に正澄)の思想と行動で照
らし出す。二人は、圧倒的
な時流におもねらず、その
誤りを身をもって正し、人
への思いやりを忘れない。
かつて今も時流に乗る
ことに巧みな学問、文化、
メディアにとって、まことに
厄介な存在なのだ。貫一
の復活を喜ぶ。(憂国者)

2015.4.20

【さしえ賞】スカイエマさん
「佐久夜の初泳ぎ」「江
戸の合戦」(いずれも小説す
ばる)「偶然屋」(週刊ポス
ト)
【写真賞】中井精也さん
「中井精也 写真集 1日1
鉄!」(インプレスジャパ
ン)
【ブックデザイン賞】川添
英昭さん「テクニウム」(み
すず書房)
【絵本賞】石川えりこさん
「ボタ山であそんだころ」
(福音館書店)

大波小波

朝刊小説

連載を前に

沈黙法廷

このところ、警察官を主人
公にした小説を多く書いてき



佐々木 譲

が犯人を逮捕したあとに送検
があり、検察による起訴があ
って裁判、審理が進み、結審
し、判決の言い渡しとなりま
す。そこまで書いて、初め
てその事件を描いたことにな
るのではないかと思うようにな
ってきたのです。

程から判決の言い渡しまでを
描いて初めて、読者が納得で
きるという種類の事件、題材
もあります。被疑者がそもそ
も犯行を否認する場合、ある
いは被疑者が警察・検察によ
る事件の解釈に同意しない場
合がそれです。

警察小説を書きつつ、判決言
い渡しまでの記述が必要とさ
れる題材を扱いたい、と思う
ようになっていました。べつ
の言い方をすれば、捜査・犯
人追及だけでなく、その後
の裁判の過程それ自体にもド
ラマのある物語を書きたいと
いうことでした。いま、新聞
連載でその機会を与えられま

◆ 絶望と創作

し今生き抜く
薬のむ
・植物はみな無
でさず眠った
病棟
これまでの人
た母の死や、預
設で受けた虐待
験により自身が
ウマ(心的外傷
の歌には、そう
詠み込まれてい
「そういう境
そうとか、同情
を抱かせるので
居さんの歌はお
じさせて読む者



を探す

る。読んでい
界が近いと感
人の吉川宏志
・くちあけて
ても のみ
知らぬ子は
とに
・灰色の空見
ゆらと死んだ
二月の雪